宗像

平成ノ大造営

時満ちて道ひらく

元日の神門前（正午）

平成二十五年 正月

元日に積雪も、三箇日で54万人 五日迄で72万人が初詣

平成二十五年「葵巳（みずのとみ）」、皇紀二千六百七十三年の新年を迎えた。

新しき年の初めを告げる拝殿の大太鼓が境内に鳴り響くと同時に御神門が開門され、初詣の人の波は怒涛の如く本殿前に広がった。柏手を打ち、両手を合わせ、新しい年に宗像大神に祈る参拝者の熱気が境内に満ち溢れた。

それに先立つ平成二十四年大晦日午後三時には、年越しの大祓式と除夜祭が斎行され、新年を清々しく過ごそうと寒さ厳しく雪が降る中、約五百名の方々が参列された。

元日午前零時には穏やかに新年を迎え、新しき

総社・辺津宮の初日の出

余滴

私たちは日本のはじまりをどれだけ知っているだろうか。現在、日本が世界最古の国であることも多くの国民は殆ど知らないのではないだろうか。国の構造は大きく君主制と共和制に分けることができるが、君主制では日本、共和制ではサンマリノが世界で最も古い国となっている。日本の君主はいうまでもなく天皇であり、第一代神武天皇から数えて百二十五代になる▼天皇の系図である皇統譜には歴代天皇をはじめ神々の系図まで記されているが、その基となっているのが『古事記』『日本書紀』（記紀）である。記紀には日本という国がどのように生まれ、どのように統治されてきたかが描かれているが、そこには些細な争いごとはあるものの、日本という国は祭り、基本的には祭祀で統治されている▼多くの国々が武力で統治されている歴史を持つ中で、日本という国は祭祀で統治され、その祭主である天皇が今も祭りを続けられている。この違いを私たちは身を以て体感することはないが、国の継続、持続という視点からこれを考えると、明らかな違いに気づくのではないだろうか▼二月十一日は「建国記念の日」であるが、今年は第一代の神武天皇が橿原の地に即位されて二千六百七十三年となる。建国記念の日にこのような古の歴史を学びながら、永遠の平和ということを考えてはどうだろうか。（敬）

神具・装束・授与品
井筒
装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401 フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23 フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技
総合建築業 株式会社 弘江組
〒811-3406福岡県宗像市稲元4丁目1-20 電話(0940)32-2567

年の初めを告げる太鼓が鳴り響く本殿では、恒例の九州旅客鉄道株式会社の新年一番祈願祭が斎行され、引き続き各団体参拝の新年祈願が斎行された。

また儀式殿においては家内安全や厄除け、祈願殿では交通安全祈願祭が次々に斎行され、本殿前、祈願殿内、福みくじの各社頭では、神職と巫女、巫女見習七十名が応対、神酒授与所ではノンアルコールの甘酒が、地元総代・協力会の御奉仕によって振る舞われ、年明けの賑わいもピークに達した。

しかし、天候はめまぐるしく変化し、午前一時頃より俄かに雪が降り出し、平素積もらない当地も瞬く間に一面銀世界となった。一時は滑りやすくなった参道や御神門の屋根に積もった雪の除雪作業などに追われたが、早朝には回復、初日の光が真っ白に覆われた社殿や木々に降り注ぎ、眩しく清々しい新年の幕開けとなった。

午前九時、平成二十五年最初の恒例祭典である元旦祭が、高向宮司以下神職の奉仕により斎行された。また、沖津宮・中津宮でも同じく斎行されており、三宮それぞれで皇室の弥栄、国家鎮護、国民の安泰、幸福が祈念された。

昼頃には一時雨となるが、午前九時頃には再び大駐車場も満車となり、参道は参拝者で込み合い、ゆっくりとした長い列が本殿までつづき、拝殿前は新たなる年に祈りを捧げる人々で溢れ、各授与所の御社頭も縁起物や御神札・御守りを求める参拝者で埋め尽くされた。

開門と同時に本殿へ進む参拝者

また、パワースポット的雰囲気を求めてか、本殿参拝の後、宗像大神御降臨の地である「高宮祭場」、沖津宮の分霊を祀る「第二宮」、中津宮の分霊を祀る「第三宮」へ参拝する若者や女性の方が多く見受けられた。

近年は周辺道路の渋滞や家族でゆっくり過ごされる方が増えているのか、

第一駐車場（元日午前一時半頃）

元日、雪積もる本殿

元日より二日ないし三日と分散化傾向にあったが、本年は曜日の関係や元日の積雪がさらに拍車をかけ、六日の日曜日まで初詣参拝は分散化した。

仕事始めは四日(金)や五日(土)から始まり、会社・団体の参拝が相次いだが、最も集中したのは七日(月)であった。

十二日からの三連休は、想定通り昨年までのように短い正月を終え、もう一度正月がくるといった周辺道路の渋滞はみられなかった。とはいえ、まだ初詣をされていない方々も多い様子で、スポーツ団体等の新年祈願や企業の成人祭、各地からの初詣バスツアーでの団体参拝が続いた。夜間や日中に時折弱雨に見舞われる日もあったものの連休中は概ね天候に恵まれ、境内は晴れ着姿の新成人も加わり華やいだ賑わいをみせた。

正月警備には、本年も宗像市消防団・ふくろう部隊・宗像市警察署の御協力を頂き、大きな問題もなく滞る事無く正月を終える事が出来た。

今年の正月は、冬型の厳しい気圧配置となり、大変寒さが厳しく、この寒さに加え曇・雪・晴・雨と気象が絡み合い、めまぐるしく変化した天候であった。しかし、全般的に大きな崩れとはならず、正月三箇日は五十四万人、五日までの累計は七十二万人という初詣参拝者数を数えた。

参拝者で込み合う参道、第二鳥居付近

本殿前授与所

地元総代・協力会の御奉仕による神酒所

出光本社の参拝

手水舎

祈願受付に併設された御造営受付

筑前大島 中津宮の正月

宗像大社中津宮が鎮座する筑前大島は人口凡そ七〇〇人の島であるが、年の瀬が近づくと島外に出た人々の里帰りでその人口が急増し賑わいをみせる。

大晦日午後五時、神門前で年越大祓式、引き続き本殿にて除夜祭が斎行され、平成二十四年の祭儀が滞りなく納められた。

そして午前零時、境内に年明けの号鼓が響き渡り神門が開かれると、初詣参拝者は神前へと進み新年の祈りを捧げた。

社頭では、正月の縁起物の破魔矢、干支の一刀彫等が授与されると共に、恒例の「中津宮新春福みくじ」が翼賛会の奉仕により行われ、宗像農業協同組合大島支店より特別協賛を賜り、新年の福を授かろうと多くの参拝者が詰め寄せた。また、境内では大島巻網船団の宮地丸組・春日丸水産が寒鰤を、沖西敏明氏、松田澄江氏からは野菜のご芳志を頂き『開運大鰤大根鍋』が振舞われ、大島ならではの冬の味覚が参拝者・帰省者を温かく迎えた。

午前七時、神前に島内外からの海の幸・野の幸等が供えられ、元旦祭を斎行。国家安泰と皇室の弥栄、国民の幸福が祈念された。

二日、大島では毎年帰省者の多いこの日に、一足早く成人祭が執り行われる。午前十一時、新成人十一名をはじめ多くの島民が中津宮へ駆けつけ新成人を温かく祝福した。

それを前後して、三十三才、四十一才、四十四才の各々に厄除・晴厄の同年講祈願祭も次々と斎行され、境内では旧友と交歓する人々で大いに賑わった。

三日、午前十一時、元始祭併せ宗像漁協大島支所の大漁祈願祭が高向宮司奉仕のもと斎行され、奉賛会・翼賛会々員、漁協役員、漁業従事者が参列し、国の悠遠の古、元始を偲び、併せて本年初頭の航海安全、漁業繁栄が祈念された。

また、十二日には今年還暦を迎える四十二名の還暦奉賽祈願祭が盛大に斎行され、祭典後には樽酒の鏡開きや餅撒きが行われ、島内各所を廻りながら祝酒も振舞われ、島内の人々は還暦を祝福すると共に大いに賑わいをみせた。

今年の中津宮正月諸祭典斎行にあたり、多大なるご協力・ご協賛を頂きました各位には衷心より御礼申し上げます。

中津宮境内、正月風景

成人式（1月2日）

還暦祝い、樽酒の鏡開き（1月12日）

沖津宮の正月

沖ノ島の勤務は、現在禰宜以下十六名の神職により一年を通じ十日交代で奉仕しております。正月といえども一人沖ノ島で新年を迎えます。左記、十二月二十八日～一月六日まで、十日間勤務した神職の感想です。

初日を拝することが出来た。大海原の彼方から昇る姿は、神々しく、今年一年の平安を願わずにはいられなかった。

時折、島には雪が舞い水桶には薄氷も張った。寒風吹きすさむ中での禊に始まる毎日の奉仕は身に堪える。しかし、沖ノ島での奉仕は神職としての本分を再認識させてくれる貴重な時間であり、悠久の昔に戻れる場所なのかも知れない。

年越しの大祓式・除夜祭

十二月三十一日午後三時、時折小雪の舞う中、中央参道の左右に参列者が並び、その列は神門より太鼓橋を越える約五〇〇名の参列となり、神門前で年越しの大祓式、引き続き本殿にて除夜祭が盛大に斎行された。

当大社では七月三十一日、十二月三十一日の年二回「大祓式」が行われているが、七月を災難消除、農作物の豊作を祈る「夏越の大祓式」、十二月を一年の罪・穢れを祓い清々しい気持ちで迎えていただく「師走の大祓式」と呼んでいる。この「大祓式」は、神話の時代に伊邪那岐命が禊され、罪・穢れを祓い清浄にされたことに発するといわれ、奈良時代には大宝律令により正式な宮中の年中行事とされた国家的神事であり、太古より行われている祓いの神事である。現在では宮中・神宮を始め全国の神社で行われている。

定刻、新年を迎える準備が整った神門前に参拝者が続々と詰めかけ、新年を清々しい気持ちで迎えようという参列者の列が太鼓橋を越えるまで続くなか、高向宮司以下神職が参進、まず葦津禰宜が大祓詞を奏上、続いて参列者各人に配られた「切麻」で祓い、「祓物」に息吹を吹きかけて切り裂き、「大麻」にて天・地・人形・罪・穢れを祓い清めた。

引き続き、本殿で除夜祭を斎行し今年一年戴いた宗像大神様の御加護に感謝し、皇室・国家の繁栄、世界の恒久平和、氏子崇敬者の皆様方のご健勝を祈念し、平成二十四年の諸祭儀は全て滞り無く終了した。

神事を終えると、参列された小さな子供から年配の方まで清々しい表情が溢れていた。

大祓詞奏上

除夜祭

献米奉告祭斎行

一月十三日午前十一時、氏子会総代・評議員参列の下、献米奉告祭が斎行され、氏子の皆様から寄せられた新穀を御神前に献上し、昨年秋の収穫を感謝すると共に、今年の五穀豊穣、無病息災を祈った。

祭典では、氏子会を代表し古賀芳秋氏が奉幣使として御奉仕された。前日から当大社に斎泊、精進潔斎の上、斎服を着装され祭典に臨まれ、宗像大神の大前で奉幣詞を奏上、大役を果たされた。

祭典終了後には、氏子会役員を長年お勤めいただいた方（十年以上）の表彰式が行われ、本年は瀧口幸男氏、松延仁氏、幸本一昭氏の三名に感謝状と記念品が宮司から贈呈され、参列した氏子会関係者から温かい祝福をうけた。

その後、清明殿を会場に「鏡開き」が行われ、直会として皆で雑煮・ぜんざいをいただき、当大社を後にした。

尚、御奉納いただいた献米は、日々の日供祭を始め、諸祭典の神饌としてお供えし、皆様方の安全と繁栄を御祈念しております。献米いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

献米奉告祭氏子奉幣使
古賀　芳秋氏（旧福間町）

宗像大社氏子会 永年勤続者表彰

氏子会副会長
瀧口　幸男氏（宗像市稲元）

氏子会評議員
幸本　一昭氏（宗像市玄海ニュータウン）

氏子会総代
松延　仁氏（福津市東福間）

祈願殿二階をリニューアル
～一般参拝者休憩所に～

本年正月より、祈願殿二階を装い新たに一般参拝者休憩所として利用できるよう再生致しました。

祈願殿内にある車祓申込者待合所の二階部分は、昭和四十六年建築当時は一般参拝者休憩所として利用されておりましたが、近年は閉鎖しておりました。

お参りいただいた皆様の休憩する施設の必要性から、今夏より清掃するなど準備を進め、既存の展示ケースには神宝などを展示、パネルを掛け休憩がてら当大社に触れていただければと神社関係の書籍も設置致しました。

さらに写真家で作家としても著名な藤原新也奉納の写真も展示させて頂いておりますので、御参拝の折にお立ち寄り頂ければと存じます。

神前結婚式挙式者芳名

（平成24年9月～12月）

末長いお幸せをお祈り致します。

9月8日	中川 昌紀様	横田 幸枝様	北九州市
16日	堺 謙太様	赤澤 美由紀様	福津市
〃	加来 剛志様	岩下 美穂様	北九州市
10月6日	山中 英明様	軽部 亜美様	古賀市
7日	馬場 秀一様	落石 真里子様	福岡市
〃	石田 憲義様	小野 晶子様	滋賀県草津市
〃	矢島 大祐様	市原 三揮様	遠賀郡
〃	綱川 史啓様	本田 真実様	東京都大田区
10日	武田 一平様	神谷 亜耶様	鞍手郡
13日	山中 計弘様	松本 典子様	北九州市
〃	中村 幸二様	髙橋 志保様	山口県宇部市
〃	村上 春二様	山下 智子様	北海道札幌市
10月21日	門野内 聡様	木原 誉子様	福岡市
11月15日	元永 勝幸様	尾形 和恵様	北九州市
24日	山下 博士様	穴井 美穂様	栃木県さくら市
12月1日	美奈 利幸様	相良 明美様	宗像市
〃	佐藤 一行様	石橋 志保恵様	直方市
〃	早川 恒徳様	土性 美紀様	宗像市
8日	神﨑 映光様	田中 直美様	大阪府吹田市
〃	武田 晃明様	後田 潤子様	宗像市
9日	千代島 徹様	石松 照代様	福津市
〃	古野 啓介様	大屋 聡子様	熊本県阿蘇郡
13日	渡邉 篤様	寺崎 綾様	久留米市
15日	松井 徳一郎様	福田 知佳子様	宗像市

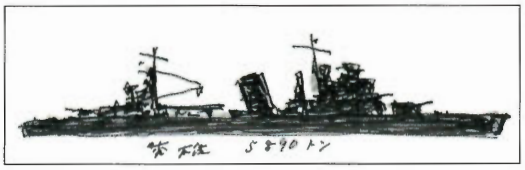
（続）浜の寄物

274

いしい ただし

昭和二十年代ごろ、福岡市内大名町のところに住んでいた。夏にはほとんど毎日のように、近くの長浜に近所の悪がきと泳ぎに行った。当時博多湾には、いたるところに船が沈没していた。私達はその沈没船を鉄船と呼んでいた。完全に沈んでいるのではなく、着底であった。泳いで鉄船まで行き、はいあがって、甲板のところで甲羅ぼしをしたり、蟹さがしをしたりした。泳ぎに行く途中には日本軍の爆弾が積み重ねてあった。

また西公園の下にあった造船所のところには、小型潜水艦が沈んでいるということでそこに仲間と見に行ったことがある。西鉄大牟田線の春日原駅近くの広場に旧日本軍の飛行機の残骸が置いてあると聞きそこにも行ったことがある。電車はただ乗りだった。戦闘機の残骸の中を、防弾ガラスをさがした。終戦から数年間は、まだまだ「戦争」がいたるところに残っていた。



さて今年の正月もあっと言う間に終わり、十二日午後から天気もよかったので、香椎宮に参拝に行った。参拝客も多かった。以前参拝した折り、軍艦の大砲があったことと、日本海軍の軽巡洋艦、香椎との関連があるのではと思ったからである。綾杉の後方には軍艦香椎之顕彰碑があった。碑を中央に、右手から戦没者名が囲むようにして、左手には軍艦香椎について記術されている。碑文を読んでみよう。

『軍艦香椎は、練習巡洋艦として姉妹艦香取、鹿島に次いで、昭和十五年七月十五日、三菱重工横浜造船所にて竣工した。初代艦長岩渕三次大佐、大佐は香椎に詣で、御分身を請願され、守護神として奉載し就役す。既に時局は急を告げ、旗艦として直ちに南部仏印に進駐の陸軍部隊を護衛し、サイゴンに進出す。大東亜戦争開始に当り、我が国の運命を屠して敢行せる山下奉文将軍麾下第二十五軍の大部隊の船団護衛しタイ国シンゴラ、コタバル等の上陸作戦の支援し、シンガポール攻略の端緒を開き、以後全作戦の支援を主任務とし、南支那海は勿論西は印度洋、東は遠くラバウルに至る広大なる海域を、総航程一万五千浬に及ぶ作戦行動に従事す。昭和二十年一月十二日、第一〇一戦隊の旗艦として航空燃料等の強行輸送船団を護衛し、航行中、仏印キノン沖で、敵機動艦隊の艦載機延三〇〇有余の執拗な攻撃を受け克く奮戦激闘したが被害累積し船団悉く撃沈され最後に香椎は魚雷二本中部及び後部に命中。

艦は一瞬にして棒立ちとなるも機銃は尚も応戦、司令官渋谷紫郎少将、艦長松村翠大佐以下死闘後遂に力尽きて艦と運命を共に便乗者を含めて一千余名、生存者は兵員僅か十七名に過ぎず、死しても止まざる殉国の気魂は米軍をして心胆を寒からしめ深く感銘を与え敢えて戦火の記録に特筆せしむ。想うにかくの如き勇猛果敢に従容にして死地に赴いた崇高なる精神に光栄ある我が海軍の精華にして、永く歴史に躍動するであろう。ここに軍艦香椎の顕彰碑を建立し艦と共に短い生涯を閉じた英霊の勇戦と労苦を偲び、祖国日本の興隆を祈念する。』

昭和五十六年五月七日
「軍艦香椎会」とある。

第六一八回 宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日〆切

宗像市　田久　田中　國廣
乳母車乗りし幼はすれ違う我にバイバイママは照れたり
評 幼児に手を振られた作者と照れてしまうママが微笑ましい。初句は字余りでも助詞〈に〉を付け、二句は〈乗れる〉に。四句のバイバイは〈手を振り〉とすると落ちつく。

福岡市　南区　井田有久衣
そこかしこつわぶき自生し黄の花にふかまる秋の訪れを知る
評 季節感のある歌。作者は広く花を見ているが歌では集中するほうが印象が鮮明になるので、そこかしこを除けて上の句を〈自生する庭のつわぶき黄に咲きて〉などとしたい。

福津市　若木台　山崎　公俊
楠の実のかず多けれど実小さしなんの寓意かとつねづね思ふ
評 楠の直径一センチに満たない程の実に哲学的な考察をする作者。本当になんの寓意なのだろうと読者も考え始めそうだ。

北九州市　八幡西区　豊田　光子
今日の子の飛行ルート北は雪南はオスプレイ空より警備
評 北国では雪という予報にパイロットの息子さんの飛行ルートを案じる作者。一日で列島を北から南まで警備されるのだろうか、南のオスプレイの警備だけで一首に詠んでも良いと思う。

うきは市　浮羽町　向　則正
戦死せる父の墓標は引きぬかれ焚火になりて浮浪者暖取る
評 戦後まもなくのことだろう、みな生きるのに必死だった時代といえ墓標を焼かれたやりきれなさが出ている。下の句〈浮浪者暖取る焚火にされつ〉とすると引き締まる。

北九州市　戸畑区　田中ハツセ
階段の一歩上りに膝痛も腰痛もなしテレビに学ぶ
評 テレビで健康法を学んで実行した作者、努力が報われて良かった。「階段の一歩上がり」は「一段上り下り」では？毎日の、日々にする、などと初句に入れても良い。

福津市　中央　池浦千鶴子
ぎんなんの落葉は風に掃かれをり一枚拾はむ追いかけながら
評 色づいた公孫樹の葉が欲しくて追いかける作者、伸びやかで共感できる歌。ぎんなんは実の呼び方なので〈風の掃く公孫樹の落ち葉きんいろの一枚・・・〉などとしては。

福津市　星ヶ丘　佐々木和彦
薪を割る台にあまたの傷がありされどいづれも遺恨なき傷
評 作者の頭の中では時代劇のような世界が展開しているようで、発想が面白い。当然のことをわざわざ「遺恨なき」と断ったところに諧謔味がある。

宗像市　田久　巻　桔梗
素の土が磁器となるまでいく日を熱あたへつぎ木ぎは燃え果つ
評 磁器を焼くための薪に注目した視点が独特。燃えながら美しい磁器を生み出す薪に思いを寄せる作者は、陰になりながら社会を支える人々などを思っているのだろうか。

宗像市　土穴　山本　静子
一キロと決めしこの道坂二つゆるき勾配ひょこひょこ歩く
評 距離を一キロと決めてウォーキングする作者、自らの歩き方を客観視し明るい。二～四句の語順を変え〈決めて勾配ゆるき坂二つある道〉としては。

宗像市　池田　森　龍子
水仙の芽立ち見ゆればこの一年恙無しとて庭の鎮もる
評 水仙の芽を見て一年が無事に過ぎたと思う作者か、それとも花から青葉、紅葉と庭に過ぎた一年を思う作者なのだろうか。庭が主語になっているが、結句を作者の行為にしては。

宗像市　日の里　大和美由紀
晩秋の庭に張りたる蜘蛛の糸朝日を受けて光を放つ
評 蜘蛛の巣が朝日に輝くさまを詠んで美しい。身近な景を丁寧に見ている作者らしい、蜘蛛にも愛情の感じられる一首。結句は放つでは光り過ぎるので〈光をかえす〉くらいに。

選者詠
友ときて囲炉裏かこめばかぶる灰焦げ目も馳走阿蘇の田楽
たましひの在り処はいづこ湯上りのおんなの胸乳みづみづと照る

第五九一回 俳句作品集

宗像市　日の里　石松　弘次
紅白の山茶花咲き空は澄む

宗像市　日の里　花田いつ枝
初日待つキリンの如き首をして

宗像市　多禮　早川　祥三
大霜に白息ひとつ刺すひかり

2月祭事暦

1・15日　月次（つきなみ）祭
午前10時～　高宮祭
第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭（1日）
午前11時～　総社祭
浦安舞奉奏（1日）
豊栄舞奉奏（15日）

3日　節分祭
午前11時～　於＝本殿
豆打ち式
午前11時30分～
於＝本殿横特設舞台

11日　建国祭　午前11時～

編集後記

本年正月、大前では冷え込み厳しいなか、お参りの順番を待つ多くの方々を目にし、宗像大神の御神徳を再認識すると同時に、神明奉仕の意も新たにしました▼さて、本年は二日・三日（土・日）に節分祭、豆まきが行われます。『鬼は～外、福は～内』災難消除、多くの皆様の御参列をお待ちしております。（鈴）

発行所
宗像大社社務所・宗像会
住所　〒八一一―三五〇五
福岡県宗像市田島二三三一
電話　（〇九四〇）六二―一三一一（代）
発行人　葦津幹之
編集人　大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷　ゼネラルアサヒ
毎月1日発行
定価1年送料共 1,000円